

台東区バリアフリー基本構想の評価結果について

1 主旨

台東区バリアフリー基本構想の段階的かつ継続的な発展（スパイラルアップ）を図り、区内全域の一体的なバリアフリー化を推進するため、基本構想の中間評価を実施した。

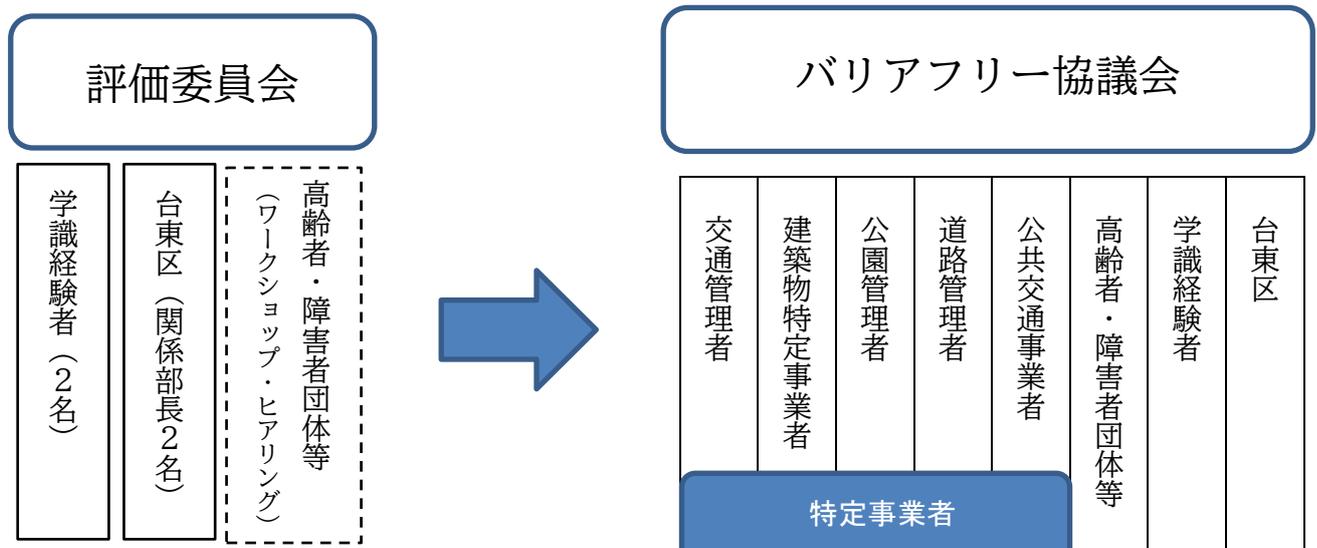
また、評価結果は、令和8年度に策定予定の「台東区バリアフリー特定事業計画（後期）」に反映する。

2 経緯

- 令和4年10月 台東区バリアフリー基本構想改定
- 令和5年 3月 台東区バリアフリー特定事業計画（前期）策定
- 令和7年 7月 第1回台東区バリアフリー協議会（中間評価の実施について）
7月 第1回台東区バリアフリー基本構想中間評価委員会（評価方法の検討）
8月～11月 評価実施
- 12月 第2回台東区バリアフリー基本構想中間評価委員会（評価のまとめ）
- 令和8年 1月 第2回台東区バリアフリー協議会（評価結果の報告）

3 評価の体制と進め方

学識経験者と区職員で構成する「台東区バリアフリー基本構想中間評価委員会」を設置し、評価を行い、台東区バリアフリー協議会に結果を共有した。



4 評価の方法

基本構想に掲げた以下の3つの基本方針を踏まえ、(1) 特定事業の進捗状況の確認、(2) 区民へのアンケート、(3) ワークショップ、(4) 関係団体へのヒアリング等をもとに、評価を行った。

基本方針	評価指標等	特定事業	アンケート	ワークショップ	ヒアリング
①ユニバーサルデザインのまちづくりの実現	・ 特定事業計画の進捗率 ・ 生活関連施設及び生活関連経路における利用者の満足度	○	○	○	○
②心のバリアフリーのさらなる推進	・ 心のバリアフリーに関する取組状況 ・ 心のバリアフリーにおける満足度	○	○		○
③観光バリアフリーの推進	・ 観光バリアフリーに関する取組状況	○		○	○

5 評価の手段

(1) 特定事業計画（前期）の進捗状況報告

特定事業計画（令和4～8年度）は、1,846事業が位置づけられており、全事業数から、継続事業、事業化の検討事業を除いた141事業の進捗率は、87%となった。（令和7年度完了見込み含む）。

	前期事業数 (A)	継続事業 (B)	検討事業 (C)	評価対象事業 (D)				前期計画 (R8年度まで) に対する R7年度 進捗率 (G)
				R7年度 までの 完了事業 (E)	未実施 (F)			
①公共交通特定事業	160	101	44	15	(13)	13	2	87%
②都市公園特定事業	69	58	0	11	(5)	11	0	100%
③建築物特定事業	580	476	37	67	(49)	54	13	81%
④道路特定事業	1,032	976	8	48	(44)	45	3	94%
⑤交通安全特定事業	-	-	-		-			-
⑥教育啓発特定事業	5	5	-		-			-
合計	1,846	1,616	89	141	(111)	123	18	87%

【表項目の内容】

- 前期事業数 (A) : 特定事業の総数
- 継続事業 (B) : 維持更新、違法駐輪の指導、接遇研修など継続して実施する事業
- 検討事業 (C) : 事業化に向けての検討や関連機関との協議が必要な事業
- 評価対象事業 (D) : 前期事業数 (A) から、継続事業 (B)、検討事業 (C) を除いた事業
- 完了事業 (E) : 評価対象事業 (D) のうち、令和7年度末までに完了する全完了事業
- 未実施事業 (F) : 令和4年度から8年度までの計画で未実施の事業
- 令和7年度進捗率 (G) : 全完了事業 (E) / 評価対象事業 (D)

※ 完了事業 (E) のうち、括弧内は令和7年度末までの計画事業数

(2) 区民へのアンケート

調査期間	令和7年9月10日～令和7年10月10日			
調査対象者	高齢者・ 障害者等	子育て世帯 (妊婦、0～3歳 児がいる世帯)	一般 (外国人、小中学生 を含む)	合 計
配布数	647	400	1,000	2,047
回収数 (回収率)	225 (34.8%)	131 (32.8%)	178 (17.8%)	534 (26.1%)
主な 調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふだん利用する公共交通機関、施設、道路の評価 ・ ユニバーサルデザインのまちづくりの推進に向けて区に求めること ・ 心のバリアフリーの取組みに対する評価等 ・ 情報提供のあり方 ・ 回答者の基本属性 			
主な意見	<p>施設全体の使いやすさについて、「使いやすい」が約46%で、「使いにくい」の約22%を上回った。また、心のバリアフリーについても、鉄道駅や施設での職員の接遇に「配慮がある」が約42%で、「配慮がない」の約10%を上回った。</p> <p>一方で、鉄道駅では、エレベーターの設置場所が不便で動線が悪いという意見や、各施設ではエレベーターの数が少なく混雑しているという意見、道路では、段差や凹凸があり、特に車椅子利用者やベビーカー利用者にとって通行が難しいという意見、交差点では、歩行者用の信号機の青時間が短く、渡り切れずに危険な箇所があるとの意見があった。</p>			

(3) ワークショップ

開催日	令和7年10月10日	令和7年11月7日
地区	三ノ輪駅周辺	浅草駅周辺
確認場所	<ul style="list-style-type: none"> ① 東京メトロ日比谷線三ノ輪駅 ② 都道462号線(国際通り) ③ 竜泉福祉センター ④ 西部区民事務所(金杉区民館) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 浅草公会堂 ② 東京メトロ銀座線浅草駅から都営浅草線浅草駅までのバリアフリールート ③ 都営浅草線浅草駅 ④ 浅草文化観光センター
調査箇所	駅のホームにおける段差解消及び隙間低減設備、券売機の使いやすさ、駅や公共施設のエレベーター、バリアフリートイレ、視覚障害者誘導用ブロックの敷設状況、道路の歩きやすさ(傾斜、段差の有無)等	
参加者	学識経験者(評価委員)、障害者団体等関係者	
主な意見	<p>鉄道駅のホームドア等の整備や改札付近の職員による案内、施設のバリアフリートイレや一般トイレへのオムツ交換台や広めの個室の設置が評価される一方、スーツケース等を持ち歩く利用者が多く、施設やエレベーターの混雑が指摘された。また、道路では、歩道の放置自転車や自転車の通行が、歩行者にとって危険であるという意見があった。</p>	

(4) 関係団体へのヒアリング

団体名	開催日	場 所	人 数
① 台東区シニアクラブ連合会	令和7年9月3日	台東区役所	18名
② 台東区手をつなぐ親の会	令和7年9月12日	手をつなぐ親の会事務所	8名
③ 台東区身障児者を守る父母の会	令和7年9月18日	りんご村事務所	5名
④ 台東区脳卒中リハビリ協会	令和7年9月19日	三ノ輪福祉センター	2名
⑤ 台東区聴覚障害者協会	令和7年9月19日 ～10月8日	メールによる依頼及び回収	3名
⑥ 台東区視覚障害者福祉協会	令和7年10月26日	松が谷福祉会館	8名
⑦ 浅草文化観光センター	令和7年10月1日	浅草文化観光センター	4名
⑧ 区内観光案内所	令和7年10月2日 ～10月17日	メールによる依頼及び回収	4か所

【ヒアリング内容】

- ① ～ ⑥ バリアフリー整備状況と心のバリアフリーに対する意見
- ⑦、⑧ バリアフリー整備状況と観光客のニーズ

【主な意見】

基本構想改定後、バリアフリートイレの設置や道路の整備が進み、移動しやすい箇所が増えてきたという意見がある一方で、自転車のマナー啓発を求める意見や、心のバリアフリーのさらなる啓発を求める意見があった。また、観光案内所では、鉄道駅の乗り換え経路や観光施設へのバリアフリー経路の情報を求める意見、公衆トイレや喫煙、公衆無線LANのスポット等を一括して確認できる情報を求める意見があった。

6 評価のまとめ

(1) 基本方針に即した検証・考察

<p>基本方針1：ユニバーサルデザインのまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全特定事業計画合計で約87%の進捗率 ・アンケートでは、概ね各施設において、「使いやすい」が「使いにくい」を上回った ・エレベーターについて、設置位置の不便さや収容人数の少なさへの意見があった ・トイレについて、男性トイレへのオムツ交換台の設置を望む意見が散見された ・今後もすべての人が安心して生活・移動できるまちの実現に向けて、ニーズに即した施設整備を進めていく必要がある
<p>基本方針2：心のバリアフリーのさらなる推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員への接遇研修や道路上の不法占用に対する指導などの特定事業が継続実施中 ・特定事業計画以外でも施設では、車椅子・ベビーカーの貸し出しやバリアフリーマップの配布などが実施されている ・アンケートでは、「手助けをしてもらったことがある」が「手助けをしてもらったことがない」を上回った ・内部障害や発達障害など、外見からは分かりづらい障害への更なる理解や対応が求められており、引き続き、心のバリアフリーの周知・啓発が求められる

基本方針3：観光バリアフリーの推進

- ・観光案内所等では、多言語対応や多言語案内板の設置など、特定事業を推進
- ・特定事業以外では、多言語による案内や宿泊施設のバリアフリー情報の提供等を実施
- ・上野・浅草のように複数の路線が乗り入れる観光地では、鉄道駅間の乗り換えルートや、鉄道駅から観光施設へのバリアフリールートなどの情報案内が求められている
- ・今後も、誰もが安心して快適に観光を楽しめるよう、各事業者と連携を図りながら、事業を推進することが求められる

(2) 総括評価

- ・基本構想に基づく特定事業計画の全事業の進捗率が87%であることや、ヒアリングやアンケートでも、総じて、ハード及びソフト両面でバリアフリー化が進んだ実感があるとの回答が得られていることから一定の評価ができる。
- ・一方、「施設の使いやすさ」という点では、鉄道駅や施設におけるエレベーターの設置位置の不便さや収容人数の少なさ、道路における歩車道境界の段差による通行のしづらさ、男性トイレへのオムツ交換台設置の要望などの課題が挙げられており、引き続き、ユニバーサルデザインの観点から事業の推進が求められている。
- ・「心のバリアフリー」については、「障害の社会モデル」※の理解や外見からは分かりづらい障害への理解・対応が求められている。
- ・「観光バリアフリーの推進」については、鉄道駅間や鉄道駅から観光施設・宿泊施設等への情報案内の充実が求められており、今後も、各事業者と連携を図りながら事業を推進していくことが必要である。
- ・今後も、国や東京都の動向を注視しながら、誰もが安心して、生活・移動できるまちづくりの実現に向けて、バリアフリー化を推進していくことが求められる。

※「障害の社会モデル」…障害は個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって創り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である、という考え方。

7 予算額（案）

13,191千円

8 今後の予定

令和8年 4月～	台東区バリアフリー特定事業計画（後期）策定検討
令和8年第4回定例会	交通対策・地区整備特別委員会（中間のまとめ報告）
令和8年12月～令和9年1月	パブリックコメント実施
令和9年第1回定例会	交通対策・地区整備特別委員会（最終案報告）
3月	台東区バリアフリー特定事業計画（後期）策定